

渡辺康行名誉教授 著作目録

I 著書（単著）

2019年 『「内心の自由」の法理』（岩波書店）

2022年 『憲法裁判の法理』（岩波書店）

II 著書（共編著・共著・共訳書）

1987年 M・J・ペリー著、芦部信喜監訳『憲法・裁判所・人権』（東京大学出版会）

1993年 樋口陽一編『ホーンブック憲法』（北樹出版）

H・クヴァーリチュ編、初宿正典・古賀敬太編訳『カール・シュミットの遺産』（風行社）

1995年 栗城壽夫・戸波江二編『憲法』（青林書院）

1997年 栗城壽夫・戸波江二編『憲法〔補訂版〕』（青林書院）

2000年 樋口陽一編『ホーンブック憲法〔改訂版〕』（北樹出版）

2002年 横田耕一・高見勝利編『ブリッジブック憲法』（信山社）

2008年 木下智史・村田尚紀・渡辺康行編『事例研究 憲法』（日本評論社）

2009年 渋谷秀樹・大沢秀介・渡辺康行・松本和彦『憲法事例演習教材』（有斐閣）

2013年 木下智史・村田尚紀・渡辺康行編『事例研究 憲法〔第2版〕』（日本評論社）

2015年 松井茂記・長谷部恭男・渡辺康行編『自由の法理 阪本昌成先生古稀記念論文集』（成文堂）

2016年 渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法I 基本権』（日本評論社）

2017年 泉徳治・渡辺康行・山元一・新村とわ『一步前へ出る司法——泉徳治

元最高裁判事に聞く』(日本評論社)

渡辺康行・木下智史・尾形健編『憲法学からみた最高裁判所裁判官
— 70年の軌跡』(日本評論社)

2020年 渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』(日
本評論社)

2023年 渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅰ 基本権〔第2版〕』
(日本評論社)

Ⅲ 論文

1982年 「戦後西ドイツにおける憲法解釈方法論議をめぐって」修士論文(東京
大学) 1-174頁

1988年 「憲法と『憲法理論』の対話 — 憲法解釈方法論と憲法裁判論の交錯す
る場で」博士論文(東京大学) 1-413頁

1989年 「カール・シュミットと現代西ドイツ憲法学 — シュミットとハーバー
マスをめぐる最近の論争を機縁として」比較法研究 51号 126頁

1990年 「『憲法』と『憲法理論』の対話(1) — 戦後西ドイツにおける憲法解
釈方法論史研究」国家学会雑誌 103巻1・2号 1頁

1991年 「ドイツ連邦憲法裁判所の憲法解釈方法論」新正幸・鈴木法日児編『憲
法制定と変動の法理 菅野喜八郎教授還暦記念』(木鐸社) 517頁

1992年 「『憲法』と『憲法理論』の対話(2) — 戦後西ドイツにおける憲法解
釈方法論史研究」国家学会雑誌 105巻1・2号 90頁

1993年 「違憲審査の正当性と〈コンセンサス〉ないし〈社会通念〉」ジュリス
ト 1022号 129頁

1994年 「家族と憲法 — 政治思想史的アプローチの試み」樋口陽一編『講座憲
法学 4 権利の保障【2】』(日本評論社) 163頁

「裁判判決の恣意および裁判の法と法律への拘束」自治研究 70巻 11号
128頁

1995年 「ドイツ憲法研究の50年」法律時報 67巻 12号 14頁

- 1996年 「概観：ドイツ連邦憲法裁判所とドイツの憲法政治」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例』（信山社）1頁
「裁判官による法形成とその限界——ソラヤ決定」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例』（信山社）303頁
「国民主権」ジュリスト 1089号 95頁
「ドイツ憲法研究の50年」樋口陽一ほか編『憲法理論の50年』（日本評論社）283頁
- 1997年 「シュミットとスメント——憲法解釈方法論と憲法裁判論の交錯する場で」初宿正典・古賀敬太編『カール・シュミットとその時代』（風行社）49頁
「人権理論の変容」『岩波講座・現代の法1』（岩波書店）65頁
「討議理論による人権の基礎づけについて——R・アレクシーの議論を素材として」憲法理論研究会編『憲法50年の人権と憲法裁判』（敬文堂）153頁
- 1998年 「団体の中の個人——団体の規律と個人の自律」法学教室 212号 33頁
「『憲法』と『憲法理論』の対話（3）——戦後西ドイツにおける憲法解釈方法論史研究」国家学会雑誌 111巻5・6号 100頁
「基本的諸自由の理論——ロールズとアレクシー」法律時報 70巻12号 107頁
- 1999年 「裁判判決の恣意および裁判の法と法律への拘束——連邦弁護士手数料法事件」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの最新憲法判例』（信山社）317頁
「『国民主権』論の栄枯——『憲法学の方法』からの概観」高橋和之・大石眞編『憲法の争点〔第3版〕』（有斐閣）10頁
「『憲法』と『憲法理論』の対話（4）——戦後西ドイツにおける憲法解釈方法論史研究」国家学会雑誌 112巻7・8号 40頁
- 2000年 「『憲法』と『憲法理論』の対話（5）——戦後西ドイツにおける憲法解釈方法論史研究」国家学会雑誌 113巻5・6号 1頁
「憲法裁判官としてのベッケンフェルデ」法律時報 72巻9号 64頁

- 2001年 「『憲法』と『憲法理論』の対話(6・完)——戦後西ドイツにおける憲法解釈方法論史研究」国家学会雑誌 114巻9・10号 25頁
- 2002年 「『憲法』と『憲法理論』の対話・補遺」法律時報 74巻3号 105頁
- 2003年 「憲法学における『ルール』と『原理』区分論の意義——R・アレクシーをめぐる論争を素材として」樋口陽一ほか編『栗城壽夫先生古稀記念 日独憲法学の創造力 上巻』(信山社) 1頁
「概観：ドイツ連邦憲法裁判所とドイツの憲法政治」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例(第2版)』(信山社) 3頁
「裁判官による法形成とその限界——ソラヤ決定」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例(第2版)』(信山社) 384頁
- 2004年 「文化的多様性の時代における『公教育の中立性』の意味——イスラーム教徒の教師のスカーフ事件を中心として」樋口陽一ほか編『国家と自由』(日本評論社) 79頁
「私人間における信教の自由——もう一つの『イスラームのスカーフ』事件が問いかけるもの」藤田宙靖・高橋和之編『樋口陽一先生古稀記念 憲法論集』(創文社) 117頁
「公教育の中立性・宗教的多様性・連邦的多様性——イスラーム教徒の教師のスカーフ事件」自治研究 80巻10号 141頁
「立法の復権か立法への逃避か」公共政策研究 4号 15頁
- 2005年 「『国家の宗教的中立性』の領分——小泉首相靖国神社参拝訴訟に関する裁判例の動向から」ジュリスト 1287号 60頁
「憲法の解釈と改正」ジュリスト 1289号 9頁
- 2006年 「裁判判決の恣意および裁判の法と法律への拘束——連邦弁護士手数料法事件」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例II〔第2版)』(信山社) 340頁
「『思想・良心の自由』と『国家の信条的中立性』——『君が代』訴訟に関する裁判例および学説の動向から」法政研究(九州大学) 73巻1号 1頁
- 2007年 「『法の支配』の立憲主義的保障は『裁判官の支配』を超えうるか」

- 『法の支配』論争を読む』井上達夫編『岩波講座 憲法1 立憲主義の哲学的問題地平』(岩波書店) 53 頁
- 「公教育における『君が代』と教師の『思想・良心の自由』」— ピアノ伴奏拒否事件と予防訴訟を素材として」ジュリスト 1337 号 32 頁
- 2008 年 「イスラーム教徒の教師志願者に対するスカーフ着用を理由とする採用拒否」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例Ⅲ』(信山社) 123 頁
- 「集会の自由の制約と合憲限定解釈— 広島市暴走族追放条例事件最高裁判決を機縁として」法政研究 75 巻 2 号 413 頁
- 「主権の意味と構造」大石眞・石川健治編『新・法律学の争点シリーズ 3 憲法の争点』(有斐閣) 16 頁
- 2009 年 「職務命令および職務命令違反に対する制裁的措置に関する司法審査の手法— 『君が代』ピアノ伴奏拒否事件最高裁判決以降の下級審判決の論理」法政研究 76 巻 1・2 号 1 頁
- 「憲法訴訟の現状— 『ピアノ判決』と『暴走族判決』を素材として」法政研究 76 巻 1・2 号 33 頁
- 「憲法訴訟の現状」公法研究 71 号 1 頁
- 「立法者による制度形成とその限界— 選挙制度、国家賠償・刑事補償制度、裁判制度を例として」法政研究 76 巻 3 号 1 頁
- 2010 年 「司法権の対象と限界— 富山大学事件最高裁判決を読み直す」法学教室 356 号 17 頁
- 「団体の活動と構成員の自由— 八幡製鉄事件最高裁判決の射程」戸波江二編『企業の憲法的基礎』(日本評論社) 79 頁
- 2011 年 「平等原則のドグマティック— 判例法理の分析と再構築の可能性」立教法学 82 巻 1 頁
- 「憲法 10 条」芹沢斉ほか編『新基本法コンメンタール 憲法』(日本評論社) 89 頁
- 「憲法 17 条」芹沢斉ほか編『新基本法コンメンタール 憲法』(日本評論社) 138 頁

- 「『合理的関連性の基準』の再検討——最近の下級審判決を中心として」
法律時報増刊『国公法事件上告審と最高裁判所』（日本評論社）140頁
- 2012年 「『思想・良心の自由』と『信教の自由』——判例法理の比較検討から」
樋口陽一ほか編『国家と自由・再論』（日本評論社）133頁
- 「『日の丸・君が代訴訟』を振り返る」論究ジュリスト1号108頁
- 2013年 「政教分離規定適合性に関する審査手法——判例法理の整理と分析」季
刊 企業と法創造9巻3号54頁
- 「政教分離原則と信教の自由——『緊張関係』とその調整」ドイツ憲法
判例研究会編『講座 憲法の規範力 第2巻 憲法の規範力と憲法裁判』
217頁
- 「憲法上の権利と行政裁量審査——判例状況の分析と今後の方向性」長
谷部恭男ほか編『高橋和之先生古稀記念 現代立憲主義の諸相 上』
（有斐閣）325頁
- 2014年 「『たたかう民主制』論の現在——その思想と制度」石川健治編『学問
／政治／憲法』（岩波書店）159頁
- 2015年 「憲法学からみた最高裁判所裁判官——企画趣旨」法律時報87巻4号
54頁
- 「『適正な紛争解決』の探求と憲法裁判——藤田宙靖」法律時報87巻4
号67頁
- 「宗教的性格のある行事への公人の参列等と政教分離原則——白山比咩
神社訴訟最高裁判決まで」岡田信弘ほか編『憲法の基底と憲法論 高
見勝利先生古稀記念』（信山社）705頁
- 「『ムスリム捜査事件』の憲法学的考察——警察による個人情報収集の取
集・保管・利用の統制」松井茂記・長谷部恭男・渡辺康行編『自由の
法理 阪本昌成先生古稀記念論文集』937頁
- 2016年 「『リベラルなタカ』——団藤重光」法律時報88巻7号84頁
- 「憲法判例のなかの家族——尊属殺重罰規定違憲判決と婚外子法定相続
分規定違憲決定」駒村圭吾編著『テキストとしての判決——「近代」
と「憲法」を読み解く』（有斐閣）69頁

- 2017年 「『日の丸・君が代訴訟』を振り返る——最高裁諸判決の意義と課題」
長谷部恭男編『論究憲法——憲法の過去から未来へ』（有斐閣）279頁
「最高裁判所判事としての団藤重光——『リベラルなタカ』の挫折と価値」樋口陽一ほか編『憲法の尊厳 奥平憲法学の継承と展開』（日本評論社）493頁
「『リベラルなタカ』——団藤重光」渡辺康行ほか編『憲法学からみた最高裁判所裁判官——70年の軌跡』155頁
「『適正な紛争解決』の探求——藤田宙靖」渡辺康行ほか編『憲法学からみた最高裁判所裁判官——70年の軌跡』309頁
最高裁判所判事としての藤田宙靖——憲法事件における『適正な紛争解決』とは」阪口正二郎ほか編『憲法の思想と発展 浦田一郎先生古稀記念』（信山社）783頁
「『君が代』訴訟の現段階——東京高裁平成27年5月28日判決を素材として」憲法研究 創刊1号89頁
「最高裁裁判官と『司法部の立ち位置』——千葉勝美裁判官の違憲審査観」工藤達朗ほか編『憲法学の創造的展開 戸波江二先生古稀記念〈下巻〉』（信山社）563頁
- 2018年 「第81条」辻村みよ子・山元一編『概説 憲法コンメンタール』（信山社）350頁
「行政法と憲法——行政裁量審査の内と外」法律時報90巻8号10頁
- 2019年 「裁判官の身分保障と分限裁判——岡口判事事件決定を機縁として」法学教室465号61頁
「『裁判官の市民的自由』と『司法に対する国民の信頼』の間——三件の分限事件から」山元一ほか編『憲法の普遍性と歴史性 辻村みよ子先生古稀記念論集』（日本評論社）735頁
- 2020年 「団体の内部自治と司法権——地方議会を中心として」判例時報2446号83頁
- 2021年 「合憲判断の方法——合憲限定解釈と憲法適合的解釈」法学新報127巻7・8号573頁

「憲法訴訟の醸成——企画趣旨」法律時報93巻4号89頁

「地方議会の自律的権能と司法審査——岩沼市議会議員出席停止処分事件大法廷判決の意義と射程」法律時報93巻5号125頁

「団体の内部自治と司法権——地方議会を中心として」判例時報臨時増刊『統治構造において司法権が果たすべき役割 第2部』2479号313頁

2022年 「裁判官弾劾制度少考——岡口基一裁判官の訴追を契機として」判例時報2500号136頁

「憲法判例における比較衡量論の諸相——法令の違憲審査から視点を移して」憲法研究10号21頁

「憲法判例における比較衡量論——その歴史と現在」大貫裕之ほか編『稲葉馨先生・亘理格先生古稀記念 行政法理論の基層と先端』（信山社）247頁

2023年 「違憲審査の正当性と〈社会通念〉ないし〈コンセンサス〉・再考」青井未帆ほか編『野坂泰司先生古稀記念 現代憲法学の理論と課題』（信山社）

IV 判例評釈・判例解説

1994年 「衆議院議員定数不均衡訴訟上告審判決」法学教室162号別冊『判例セレクト93』9頁

「政党の内部自治と司法審査」芦部信喜・高橋和之編『憲法判例百選Ⅱ〔第3版〕』（別冊ジュリスト131号）（有斐閣）398頁

1997年 「強制加入団体と会員の思想の自由——南九州税理士会政治献金事件」ジュリスト臨時増刊『平成8年度重要判例解説』1113号13頁

2000年 「政党の内部自治と司法審査」芦部信喜・高橋和之編『憲法判例百選Ⅱ〔第4版〕』（別冊ジュリスト155号）（有斐閣）406頁

2005年 「改正駐留軍用地特措法の合憲性——『象のオリ』訴訟上告審判決」法学教室別冊『判例セレクト2004』294号8頁

「取材への応答拒否——堺市泉北コミュニティー事件」堀部政男・長谷

- 部恭男編『メディア判例百選』（別冊ジュリスト 179号）（有斐閣）22頁
- 2006年 「取材・報道と肖像権」ジュリスト臨時増刊『平成17年度重要判例解説』1313号9頁
「地方公共団体における外国人の昇進制限の合憲性」民商法雑誌 135巻2号375頁
- 2007年 「政党の内部自治と司法審査」高橋和之・長谷部恭男・石川健治編『憲法判例百選Ⅱ〔第5版〕』（別冊ジュリスト 187号）（有斐閣）418頁
「靖国参拝と損害賠償の対象とすべき法的利益侵害の有無」民商法雑誌 136巻6号727頁
- 2008年 「職務命令と思想・良心の自由——『君が代』ピアノ伴奏拒否事件最高裁判決」法律のひろば 61巻1号60頁
「『君が代』ピアノ伴奏拒否事件上告審判決」法学教室 330号別冊『判例セレクト 2007』5頁
- 2010年 「改正駐留軍用地特措法の合憲性——『象のオリ』訴訟上告審判決」法学教室編集部編『判例セレクト 2001-2008』（有斐閣）45頁
「『君が代』ピアノ伴奏拒否事件上告審判決」法学教室編集部編『判例セレクト 2001-2008』（有斐閣）80頁
- 2012年 「『君が代』起立斉唱職務命令訴訟最高裁判決」法学教室 377号別冊付録『判例セレクト 2011 [1]』10頁
「衆議院小選挙区選挙における区割基準、区割りおよび選挙運動上の差異の合憲性」判例評論 637号（判例時報 2136号）158頁
- 2013年 「尊属殺重罰と法の下での平等——尊属殺重罰規定事件」長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ〔第6版〕』（別冊ジュリスト 217号）（有斐閣）60頁
- 2014年 「民法900条4号ただし書き前段の合憲性」法学セミナー増刊『速報判例解説』14号（日本評論社）23頁
- 2018年 「取材への応答拒否——堺市仙北コミュニティ事件」長谷部恭男ほか編『メディア判例百選〔第2版〕』（別冊ジュリスト 241号）（有斐閣）22頁

頁

2019年 「尊属殺重罰と法の下の平等——尊属殺重罰規定判決」長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕』（別冊ジュリスト245号）（有斐閣）56

頁

2022年 「地方議会議員に対する出席停止の懲罰と司法審査」ジュリスト臨時増刊『令和3年度重要判例解説』1570号10頁

V 解説

1993年 「多数だけでは決めない仕組み」樋口陽一編『ホーンブック憲法』（北樹出版）266頁

1994年 「行政権に対する司法審査」岩間昭道・戸波江二編『憲法Ⅰ〔総論・統治機構〕』（日本評論社）152頁

1995年 「基本原理としての国民主権主義」栗城壽夫・戸波江二編『憲法』（青林書院）81頁

1997年 「基本原理としての国民主権主義」栗城壽夫・戸波江二編『憲法〔補訂版〕』（青林書院）81頁

1998年 「多数だけでは決めない仕組み」樋口陽一編『ホーンブック憲法〔改訂版〕』（北樹出版）269頁

2001年 「主権」長谷部恭男編『Best Selection 憲法本41』（平凡社）310頁

2002年 「憲法の役割についての考え方——公私区分論の現在」横田耕一・高見勝利編『ブリッジブック憲法』（信山社）18頁

2008年 「教育の自由——授業内容を理由とする教員への文書戒告事件」木下智史ほか編『事例研究 憲法』（日本評論社）136頁

「裁判官の身分保障——裁判官の分限事件」木下智史ほか編『事例研究 憲法』（日本評論社）221頁

「有名芸能人と写真週刊誌事件」木下智史ほか編『事例研究 憲法』（日本評論社）270頁

「イスラーム教徒の教師のスカーフ事件」木下智史ほか編『事例研究

- 憲法』(日本評論社) 300 頁
- 「暴走族追放条例事件」木下智史ほか編『事例研究 憲法』(日本評論社) 478 頁
- 2009 年 「団体と個人——地域自治会の活動と会員の権利」渋谷秀樹ほか『憲法事例演習教材』(有斐閣) 11 頁
- 「思想・良心の自由——メディアに対する謝罪広告命令」渋谷秀樹ほか『憲法事例演習教材』(有斐閣) 30 頁
- 「選挙——選挙運動の自由と平等」渋谷秀樹ほか『憲法事例演習教材』(有斐閣) 73 頁
- 「表現の自由と教育の自由——教師の生徒会誌への回想文に対する切り取り命令」渋谷秀樹ほか『憲法事例演習教材』(有斐閣) 99 頁
- 「番組の編集と取材対象者」渋谷秀樹ほか『憲法事例演習教材』(有斐閣) 155 頁
- 「公共的施設における受動喫煙防止条例」渋谷秀樹ほか『憲法事例演習教材』(有斐閣) 173 頁
- 「裁判員制度の憲法問題」渋谷秀樹ほか『憲法事例演習教材』(有斐閣) 201 頁
- 「精神的原因による投票困難者の救済」渋谷秀樹ほか『憲法事例演習教材』(有斐閣) 232 頁
- 2011 年 「平成 22 年度 憲法判例の動き」ジュリスト臨時増刊『平成 22 年度 重要判例解説』1420 号 2 頁
- 2012 年 「平成 23 年度 憲法判例の動き」ジュリスト臨時増刊『平成 23 年度 重要判例解説』1441 号 2 頁
- 2013 年 「平成 24 年度 憲法判例の動き」ジュリスト臨時増刊『平成 24 年度 重要判例解説』1453 号 2 頁
- 「教育の自由——教育内容を理由とする教員への文書戒告事件」木下智史ほか編『事例研究 憲法〔第 2 版〕』(日本評論社) 163 頁
- 「裁判官の身分保障——裁判官の分限事件」木下智史ほか編『事例研究 憲法〔第 2 版〕』(日本評論社) 254 頁

『『無差別大量殺人』団体への観察処分事件』木下智史ほか編『事例研究 憲法〔第2版〕』（日本評論社）299頁

『イスラーム教徒のスカーフ事件』木下智史ほか編『事例研究 憲法〔第2版〕』（日本評論社）326頁

『地方公務員の自動失職事件』木下智史ほか編『事例研究 憲法〔第2版〕』（日本評論社）326頁

2014年 「平成25年度 憲法判例の動き」ジュリスト臨時増刊『平成25年度 重要判例解説』1466号2頁

2015年 「平成26年度 憲法判例の動き」ジュリスト臨時増刊『平成26年度 重要判例解説』1479号2頁

『《学界展望》憲法——憲法総論』公法研究77号235頁

2016年 「平成27年度 憲法判例の動き」ジュリスト臨時増刊『平成27年度 重要判例解説』1472号2頁

『《学界展望》憲法——憲法総論』公法研究78号268頁

2017年 「平成28年度 憲法判例の動き」ジュリスト臨時増刊『平成28年度 重要判例解説』1505号2頁

2018年 「平成29年度 憲法判例の動き」ジュリスト臨時増刊『平成29年度 重要判例解説』1518号2頁

2019年 「平成30年度 憲法判例の動き」ジュリスト臨時増刊『平成30年度 重要判例解説』1531号2頁

VI 翻訳

1987年 M・J・ペリー「第3章 解釈主義、表現の自由および平等保護」芦部信喜監訳『憲法・裁判所・人権』（東京大学出版会）89頁

1993年 E.-W. ベッケンフェエルデ「カール・シュミットの国法学上の著作を解読するための鍵としての政治的なものの概念」H・クヴァーリチュ編、初宿正典・古賀敬太編訳『カール・シュミットの遺産』（風行社）282頁

VII 書評

- 1985年 「学界展望 Helge Wendenburg, Die Debatte um die Verfassungsgerichtsbarkeit und der Methodenstreit der Staatsrechtslehre in der Weimarer Republik, 1984.」 国家学会雑誌 98 卷 1・2 号 182 頁
- 1987年 「学界展望 Christine Landfried, Bundesverfassungsgericht und Gesetzgeber, 1984.」 国家学会雑誌 100 卷 9・10 号 15 頁
- 2001年 「長谷部恭男『憲法学のフロンティア』」 長谷部恭男編『Best Selection 憲法本 41』(平凡社) 154 頁
「樋口陽一『近代立憲主義の憲法構造』」 長谷部恭男編『Best Selection 憲法本 41』(平凡社) 270 頁
- 2006年 「宍戸常寿『憲法裁判権の動態』」 ジュリスト 1322 号 37 頁
- 2010年 「長谷部恭男『憲法の境界』(羽鳥書店、2009年)」 憲法理論研究会編『憲法学の未来』(敬文堂) 215 頁
- 2016年 「Book Review: 戦後司法界の内側を描く——『法服の王国』黒木亮」 HQ (Hitotsubashi Quarterly) 51 卷夏号 52 頁
- 2017年 「最高裁という『異界』——藤田宙靖『最高裁回想録——学者判事の七年半』法学セミナー 750 号扉頁
- 2020年 「市川正人・大久保史郎・斎藤浩・渡辺千原編著『現代日本の司法: 「司法制度改革」以降の人と制度』(日本評論社)」 立命館アジア・日本研究学術年報 2 号 116 頁
- 2021年 「北村幸也著『裁判と法律のあいだ——ドイツ憲法の視角から』(成文堂、2020年)」 一橋法学 20 卷 3 号 1701 頁

VIII 報告書

- 1999年 「憲法学における個人と団体——群馬司法書士会復興支援金事件を中心として」 嶋津格編著『多元的秩序と共通規範の研究——報告書 No.1 (中間報告)』 38 頁

2004年 「基本的諸自由の理論」嶋津格編著『法と道徳の相互浸透』千葉大学大学院社会文化科学研究科プロジェクト報告書第64集46頁

IX 座談会、講演記録、学会記録

1983年 日本公法学会第47回総会第1部会「平等権の諸問題」シンポジウムの討論要旨、小林直樹、佐藤幸治、池田政章、渡辺康行、公法研究45号45頁

2007年 日本公法学会第71回総会第1部会「現代における安全と自由」シンポジウムの討論要旨、棟居快行、渡辺康行、阿部和文、公法研究69号138頁

2008年 全国憲法研究会2007年秋季研究集会「日本国憲法60年——憲法学の成果と課題(2)」シンポジウムのまとめ、武田真理子、渡辺康行、憲法問題19号102頁

2011年 日本公法学会第75回総会第2部会「公法学の学際的研究」シンポジウムの討論要旨、曾和利文、渡辺康行、重本達哉、公法研究73号220頁

2015年 『『傍聴人に聞こえない証人尋問』国家賠償請求事件——一橋大学ロースクール人権クリニック』(吉田秀康、塚田育恵、阪口正二郎との共著)法学セミナー60巻11号12頁

2017年 全国憲法研究会2016年秋季研究集会「憲法変動の理論的研究——比較法的検討の視点から」シンポジウムのまとめ、糠塚康江、渡辺康行、憲法問題28号101頁

2020年 「議事録〔コメント1〕」法科大学院要件事実教育研究所報18号『憲法と要件事実』(日本評論社)68頁

「レジュメ〔コメント1〕」法科大学院要件事実教育研究所報18号『憲法と要件事実』(日本評論社)140頁

2021年 大橋正春、鬼丸かおる、渡辺康行、嘉多山宗、卷美矢紀「〔インタビュー〕大橋正春・鬼丸かおる元最高裁判事に聞く——憲法訴訟の実務と学説」法律時報93巻2号56頁

X その他

- 2000年 芦部信喜ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第四版〕』（別冊ジュリスト 154・155号）（有斐閣）編集協力
- 2003年～2015年 判例六法（有斐閣）（平成16年度版～平成28年度版）編集協力
- 2013年 「憲法（統治機構）——情報をうのみにせず、自分の力で考える」HQ（Hitotsubashi Quarterly）37号39頁